公認会計士 三田会

会

幸区





N	5
1	ĸ
-	~

 \blacksquare

会長疾拶	01
三田会会長/小見山満(昭和52年経済学部卒)	
CSP-CFP関係 ·······	02
慶應義塾大学商学部長/岡本大輔(昭和56年商学部卒)	
今こそ独立の意味が問われる時	03
三田会副会長/大塚敏弘(昭和59年商学部卒)	
会計や監査とはかけ離れた内容ですが。	04
三田会幹事/要石博之(昭和62年経済学部卒)	
変化の中で、変わらないもの	05
三田会副会長/吉川高史(平成8年経済学部卒)	
「リーダー」とは	06
三田会幹事/鄭善斗(平成29年経済学部卒)	

独立自尊······· 三田会新人世話人/高山大輔(平成31年経済学部卒)	07
公認会計士試験の状況	08
公認会計士試験 合格一覧	09
総会·新人歓迎会·研修会報告 ·······	11
ゴルフ報告	12
役員一覧······	13
公認会計士三田会·会則 ·······	14

公認会計士三田会 会長

小見山 満

昭和52年経済学部卒

会長挨拶

昨年3月に公認会計士三田会会長に就任いた しました昭和52年経済学部卒の小見山満でご ざいます。現在、5000名を超える塾出身の公認 会計士三田会は、公認会計士業界を支える重要 な存在と言っても過言ではありません。当会員は 監査法人や上場企業、更には日本公認会計士協 会などにおいて中心的役割を果たしているからで す。

公認会計士の活躍の場は、ここ10年間で今ま で想像もできなかったほど広がってきました。IT やAIが発達して公認会計士の仕事は減っていく のではないかと主張するメディアも多かったので すが、全く逆の現象が起きているのです。御存知 の通り、企業経営にアドバイスをするコンサルタント、 企業内会計士、社外役員、更には、中小企業を支 える経営指導者や事業継承・相続の相談や申 告をする公認会計士が急増しています。特に、合 理化を求める企業の要求にITを活用する提案が できる公認会計士が増えてきました。一方、海外 で活躍する公認会計士も増えてきています。日本 企業の海外進出のお手伝いや高所得者の資産 運用アドバイスをしたり、逆に日本に進出してくる外 国企業の日本での活動の援助をしたりしています。 それらの方たちは、先輩や同僚のネットワークを活 用して次の分野にチャレンジしている方が多いよ うです。人的な交流を大切にし、未知の分野を知 ることは人生にとって重要な財産になります。その ためにも、人事交流の場として各種懇親会などを 企画している公認会計士三田会のイベントに参加 して、一人でも多くの先輩と名刺交換をして下さ い。塾員でしたらいつでも参加いただけます。

慶應義塾大学は大学別公認会計士試験合格 者数45年連続1位を保ってきていますが、まだま だ合格者が足りない状況です。そこで公認会計士三田会では、会長と若手会員が毎年日吉キャンパスを訪れ、1、2年生を対象に公認会計士の仕事の現状と将来性をお話しています。公認会計士三田会の若手会員がその準備にも力を発揮してくれています。

昨年秋には慶應義塾大学医学部の中村教授 に再生細胞を活用したお話をしていただきました が、開場が一杯になるほどの若手の会員が参加 してくださり、中村教授のお話に最後には目に涙 を浮かべるほど感動した会員も少なくなかったよう です。

公認会計士三田会は、皆様のお力で支えられています。一人でも多くの会員の方にご参加いただき、この会を若手中心の会として盛り上げて下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



慶應義塾大学 商学部長

岡本 大輔

昭和56年商学部卒

CSP-CFP関係

2019年10月より、商学部長になりました、岡本です。自己紹介として、私の研究内容をご紹介させていただきます。というのは、専門は経営学なのですが、その中でも企業評価という領域で、それはちょうど、経営学と会計学の境界領域になるからです。

企業評価とは、一言でいえば、どのような企業が良い企業で、どのような企業が悪い企業かを考える学問です。良い悪いの基準は、評価を行なう立場によって、目的によって、様々ですが、昔からよく言われる「儲かっていて伸びている」という基準があります。もう少し固い言い方をすると、収益性と成長性となります。

現代企業にとっても、収益性と成長性はも ちろん大事な基準ですが、私はそれだけでは 足りない、と考えております。現代企業、特に 大企業の社会的影響力は巨大で、もはや、自分 だけが儲かっていて伸びている、というのは 許されない時代であるからです。

そこで私は良い企業の3つ目の基準として、社会性を提唱してきました。社会性は、企業と社会との関係という意味で、日本では高度成長期以来、企業の社会的責任という考え方が広く浸透してきました。21世紀に入ってからは、西洋生まれのCSRという言葉が日本でも普及しています。CSRは Corporate Social Responsibilityの頭文字ですから、そのまま訳せば、企業の社会的責任です。

しかし社会的責任というと、公害を出さな

い、騒音を出さない、汚水を排出しないなど、 社会にとってのマイナス活動を行なわない、 という受け身の姿勢や、本業とは関係のない 寄付活動などを想定する場合も少なくありま せん。CSRにおいては、それらの受け身の社 会的責任も含みますが、もっと積極的に社会 との関係を考え、それを本業に生かした形で 社会との関係をよくしていく、という戦略的 な考え方になります。

実際には、収益性・成長性と社会性を同時に達成していくことは難しく、私は短期的目標としての収益性、中長期的目標としての成長性、超長期的目標としての社会性という位置づけで考えています。そして、それが実際に達成できているか否かを測る分析をCSP-CFP関係の分析と呼びます。これは企業の社会的成果(Corporate Financial Performance)の分析であり、まさに、経営学と会計学の橋渡しになるわけです。

公認会計士の皆様方も、是非、CSP-CFP関係を考えていただければ、と思います。

参考文献

Okamoto, Daisuke "Social Relationship of a Firm and the CSP-CFP Relationship in Japan: Using Artificial Neural Networks," Journal of Business Ethics, Vol.87 No.1, 2009, pp.117-132.

岡本大輔『社会的責任とCSRは違う!』千倉 書房、2018.



公認会計士三田会 副会長

大塚 敏弘

昭和59年商学部卒

今こそ独立の意味が問われる時

私は監査法人に所属して会計監査業務に30年余り従事していますが、被監査会社の帳簿及び監査調書が紙からシステムあるいは電子への変化はあったものの、被監査会社の現場に行き、内部統制に依拠をして試査を実施するという点では、監査手法は大きく変わっていません。しかしながら、今、これがデジタル技術によって大きく変わろうとしています。

デジタル技術は今まで見えなかったものを可視化し、現場に行かなくても、しかも随時に情報を入手できるなど、今まで出来なかったことを可能にします。それによって監査手続きの選択肢が大幅に拡大されつつあります。また、RPA等の技術によって、従来、人が単純作業として実施していた業務が自動化されることにより、我々プロフェッショナルがより高度な知識、判断力を必要とする領域に注力できる環境になってきています。

同時に、法規制をはじめ、働き方改革の浸透により、時間は有限であるという前提の労働環境になってきています。

将来、会計監査の業務がなくなるという人もいますが、将来の会計監査の業務は現在と同じではないと思いますし、現在の監査業務イコール将来の公認会計士の業務でもありません。会計監査、あるいは公認会計士の業務は社会科学であって、資本市場の求めに応じて変化するものです。より情報及びデータが氾濫する市場において、公認会計士のような公正な第三者的なプロフェショナルはより必要とされていくのではないでしょうか。

このような環境の中で、現在においては、我々プロフェッショナルは限られた時間の中で、社会から期待される役割を果たすことが求められますし、将来的には市場が何を求めているかをいち早く把握する必要があります。その期待に応えられるようするためには必要なスキルを身に着け、自分の意思をもって考えることがより重要になります。その必要なスキルは伝統的に勉強してきたスキルと違うものがあるかもしれません。

また、集団の中にいても個人の役割は非常に 重要になってきています。かつては電子ツール等 によって誰がやっても均質になるような会計監査 の商品化を目指しましたが、今後は監査チーム内 のどのようなポジションでもその場面、その場面で 自らの意思で考え、判断する領域が多くなると考 えられます。それは1人のリーダーがいて、他の人 はフォロワーであるというスタイルではなく、1人ひ とりが自身のリーダーであるスタイルで働くことを 意味します。

このように、今、我々に求められていることは、 「自分で考えて独立せよ」という福澤先生の教え そのものですね。



公認会計士三田会 幹事

博之 要石

昭和62年経済学部卒

会計や監査とはかけ離れた内容ですが。

昨年は、令和という新しい元号を迎え、元号が 注目された年であった。しかし、その一方で、改元 を機に、契約書等の書類について元号から西暦 に変更しているケースが多くみられた。「監査契 約書 | も 「委託審査に関する事項 | に記載されて いる 「監査意見表明のための委託審査要領 | の 最終改正日を元号から西暦に変更しているのだ から、同様のことが言えるであろう。私の場合、特 に指定がない限り、元号を使用してきたと思うが、 正直、あまり意識して使い分けたことがなかった。 そこで、私は、自省の意味も込めて、日本人にとっ て元号とは何なのかについて考えてみることにし た。

日本の元号は「大化」で始まったのであるが、 制度として定着したのは「大宝」からである。以 後、途切れることなく現在に至っているわけであ るが、世界の主流が西暦にあって、なぜこの伝統 を守り続けているのだろうか。そこには、元号を発 明した古代中国の思想「皇帝が時間をも支配す る」という考え方が根底にあるようだ。東アジア諸 国の中には中国や日本の他に朝鮮王朝やベトナ ムも元号を採用していたのであるが、唐王朝の冊 封体制等により、その国独自の元号が消滅し中 国の元号を使用していたという歴史がある。その ような中、日本は独自の元号(和暦)を1300年以 上にわたって使用し続けてきたのであり、その意 味では独立国家として存在してきた矜持の象徴 として位置づけていたと考えることもできるであろ う。

現在の元号は「一世一元」が制度化されてい るが、明治時代以前は改元に関する法律はなく、 「代始の改元」の他に、縁起の良いことが起こっ たときに行なわれる「祥瑞改元」や自然災害等の 理由で改元される「災異改元」があった。「祥瑞 改元 | としては武蔵国で産出された自然銅が朝 廷に献上されたことを記念した「和銅」、「災異 改元 | としては大乱の事態収拾に願いを込めて 改元された「応仁」がある。さらには「承久の乱」、 「文永・弘安の役」、「建武の新政」、「元禄 文化」、「享保の改革」、「安政の大獄」等、元 号は日本人にとって文化的、政治的、社会的に重 要な意味を持っているといえる。慶應義塾も「創 立の年号に取て仮に慶應義塾と名く」として命名 されている。今では、「昭和の歌姫」、「平成の 怪物 | 等、ひとつの時代を区切り見つめ直す時代 区分となっている。

そう考えると、元号は、今もって、日本人共通の 時間軸であり、日本人としてのアイデンティティそ のものであるといえる。便利でありさえすればいい 等の理由で西暦に一本化するのではなく、西暦 か元号かを選択する余地を残せば良いし、それ を併用できる器用さも日本人の力であると考える。



公認会計士三田会 副会長

吉川 高史

平成8年経済学部卒

変化の中で、変わらないもの

公認会計士三田会の皆さん、こんにちは。新人 の皆さん、合格おめでとうございます。

私は平成7年10月に公認会計士2次試験を通りましたので、今年は会計士の仕事を始めて25年日になります。

合格した当時はバブル経済崩壊の後で、景気が年を追うごとに悪くなっていくのが実感できるような時期でした。携帯電話が普及し始めていましたが、日々の連絡は固定電話がメイン、スタッフが使えるPCは監査部門共有のデスクトップが4~5台、もちろんクライアントからいただける資料も紙のものがほとんど、当然に監査調書は紙面調書のみという時代。紙で打ち出された分厚い総勘定元帳をめくりながら、異常な仕訳を探したものでした。

それから25年、仕事環境は見違えるくらいに大きく変化しています。携帯はもちろん、PC一人一台、タブレットの使用も当たり前、ITのおかげで情報収集や情報伝達のツールは、質、量、スピード、すべてにおいて格段に便利になっています。監査の手法もクライアントのすべての仕訳データにチェックをかけるという極め細やかで網羅的な検証が可能となり、今後はそれをよりタイムリーに、そしてAIで異常なものを漏れなく拾えるようにと、ツールの開発も進んでいます。

この25年、書ききれないくらいの大きな環境の変化がありましたが、その中で変わらないこともあります。

まず、監査は今も昔も財務諸表に誤りがないことを確かめるのが目的です。言い方を変えれば、 誤りを見つけて正しくするのが仕事であり、そこ に変化はありません。どうやって誤りを見つけるか、 どうしたら会社が間違えないか、をこれからも追 求していくものだと思います。

次に、どんなにITが発達しても結局、仕事をしているのは人だということです。嘘をついたり間違えたりするのは(システムエラーであれ)、人に依るところが大きいということも変わらないと思います。

そして、人が仕事をしている以上、コミュニケーションが大切ということも不変です。クライアントであっても監査法人内であっても会話をしなければ仕事は進みません。様々なコミュニケーションツールはありますが、やはりface to faceの会話により、そこで働いている人を知り、表情や雰囲気を確かめながら仕事することが大事です。

最後に、変わらないもの、それは公認会計士三田会です。塾出身の会計士は、どんなに時代が変わろうと、仕事のやり方が進化しようと、その時その時代の公認会計士業界を支え、様々な分野の第一線で活躍しています。そんな先輩後輩が集まり、社中協力、半学半教、法人の垣根を越えて、気軽に思ったことを話し合える場であることは今も昔も変わりありません。慶應義塾があり、公認会計士三田会がある。変化が激しい中だからこそ、何か軸となる、安定した、安心できる、誇れるものに価値を感じるのは私だけでしょうか?

これからも公認会計士三田会が皆さんの一つの拠り所となるように、盛り上げて行ければと思います。皆さんと3月25日の新人歓迎会でお会いできることを楽しみにしています。



公認会計士三田会 幹事

鄭 善斗

平成29年経済学部卒

「リーダー| とは

公認会計士三田会の皆様、初めまして。平 成29年に慶応義塾大学経済学部を卒業いた しました、鄭と申します。ひょんなことから 寄稿の機会をいただき、誠に光栄でございま す。

私はPwCあらた有限責任監査法人に勤務 しており、シニアアソシエイトとして監査業 務に従事しております。平成最後の修了考査 に昨年合格し、晴れて正式に公認会計士とな りました。責任・業務量・飲酒量・体重等々 の大幅な増加に悩みながらも刺激的な毎日 を送っているわけでございますが、最近の もっぱらの悩みは「リーダー」についてです。 自分は良きリーダーとしてチームを率いて いるだろうか。正しくリーダーシップを発揮 できているだろうか。そもそも良いリーダー とは?正しいリーダーシップとは?などと 自問の日々です。皆さんは、「リーダー」とは 何だと思われますでしょうか。

最近、通勤電車の中でTED Talksというア プリを使って、様々な専門家によるプレゼン 動画を視聴するのが習慣となっているので すが、その中でとても素敵なプレゼンがあっ たので紹介したいと思います。Simon Sinek 氏による「Why good leaders make you feel safe」というプレゼンです。Simon氏はプレ ゼンの中で、「リーダーとは安心感を与えら れる存在である」と語っています。曰く、自ら 率先して行動し、誰よりもリスクを冒す人が リーダーであり、そのようなリーダーは組織 に安心感を与えられる、と。デジタル化が進

む今日においては、会計監査業務も日に日に デジタル化・効率化が進んでおり、膨大な単 純作業が業務から消えつつあります。そのよ うな社会において、他者を犠牲にしてでも目 標達成を目指すリーダーは取り残されてい き、今後より一層、チームメンバーの心のケ アを行いながら、負うべき責任を負うことの できるリーダーが求められていくのではな いかと考えております。

私も、現場をコントロールする主査として、 より一層、正しいリーダーシップを発揮して いきたいと思う所存であります。Simon氏 の言葉を借りれば、地位だけは高くともリー ダーとは呼べないような人間にならないよ う、常日頃から自問していきたいと思ってい ます。

最後になりますが、令和元年公認会計士試 験合格者の皆様方の合格・入会を心よりお 祝い申し上げます。又、日ごろよりお世話に なっております先生の皆様方におかれまし ても今後のさらなるご活躍、ご健勝をお祈り 申し上げます。まだまだ公認会計士としても、 もちろんリーダーとしても未熟ではござい ますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒 宜しくお願い致します。



公認会計士三田会 新人世話人

高山 大輔

平成31年経済学部卒

独立自尊

公認会計士三田会の皆様、初めまして。平成31年経済学部卒の高山大輔と申します。

現在は、監査法人トーマツで主に国際監査業務に2年目のスタッフとして従事しております。三田会の皆様には様々な形で大変お世話になっており、今回このような機会を頂けて大変光栄です。

私は2012年に慶應義塾志木高等学校に入 学し、2015年に慶應義塾大学の経済学部に 入学しました。慶應義塾の一貫教育校である 志木高は、慶應義塾の根本精神である「独立 自尊 | をずっと大事にしていました。そもそ も「独立自尊」とは何かと言いますと、「心身 の独立を全うし、自らのその身を尊重して人 たるの品位を辱めざるもの、之を独立自尊の 人と云う」つまり、自他の尊厳を守り、何事 も自分の判断・責任のもとに行うことを意 味しています。会社へ入社してから、この根 本精神はまさに会計士という職業にピッタ リな言葉だと感じました。皆様のご存知の通 り、会計士の一言一言に責任が大きく伴いま す。そして時にはその会社の存亡に関わる事 も少なくありません。経済は日々激しく変化 しており、5年前、10年前の常識が通用しな いこの現代社会だからこそ、我々会計士は責 任意識を強く持つべきだと思います。今こそ 「独立自尊」という精神を大事にするべきだ と思います。この慶應義塾の根本精神は在学 中にではなく、社会人になって初めて、私の 心に響きました。

始まる前に不安だった社会人生活はもう 少しで一年が経とうとしています。今の私に このような魅力的な成長できる環境を与え てくれた会計士という資格に感謝しています。そして私に沢山の良き仲間と繋がれる環境を与え、「独立自尊」という言葉を教えてくれた母校にも感謝しています。歳を重ねることで考え方が変わり、環境が変わり、仕事内容が変わっていても、この「独立自尊」という精神だけは変わる事はないでしょう。これからはこの言葉を胸に、真摯に一つ一つの事に向き合っていきたいと思います。

まだまだ未熟ものですが、頂いた機会を無駄にしないよう常にチャレンジをし続け、自らの可能性を更に広げ、社会に貢献できる人材になれるよう日々精進して参りたいと思います。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》 連続 45 年間、合格者数首位を堅持

令和元年公認会計士試験は、令和元年11月15日に合格者が発表されま した。

令和元年の公認会計十試験は、願書提出者総数12.532人、論文式受験 者数3.792人、最終合格者数1.337人となっています。合格率は10.7%でした。 このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は183人であり、2位早稲田の 105人に78人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度か ら45年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇の ためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上 げます。

【令和元年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数 12.532人(前年11.742人) 短答式合格者数 1,806人(前年2,065人) 最終合格者数 1.337人(前年1.305人) 合格率 10.7%(前年11.1%)

【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾183名、早稲田105名、明治81人、中央71名、東京40名 京都38名、立命館38名、神戸36名、一橋34名、法政34名

以上

, 第44号

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表 公認会計士三田会調べ

公前 の	去訂工二田去訴	9'\		1	ı	ı	1	ı		1	1
年	液	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度(1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶応義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立	同志社 5
4	昭和48年度(1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶応義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立	法政 7	立教 5	-
6	昭和50年度(1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度(1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立	立教 6	東京 5
8	昭和52年度(1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立
9	昭和53年度(1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立	立教 3	日本 2
10	昭和54年度(1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度(1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度(1981)	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度(1982)	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度(1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度(1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度(1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度(1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度(1987)	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度(1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立
21	平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本
22	平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4

26	平成7年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	一橋	明治	横浜国立	法政	日本	立教
	(1995)	134	134	41	39	27	22	15	11	8	8
27	平成8年度	慶應義塾	早稲田	中央	一橋	東京	明治	横浜国立	法政	日本	立教
	(1996)	115	95	39	38	34	23	22	14	11	4
28	平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本
29	平成10年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	明治	一橋	横浜国立	法政	日本	立教
	(1998)	119	97	34	29	28	21	14	13	12	9
30	平成11年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	一橋	明治	法政	横浜国立	日本	立教
	(1999)	133	88	47	47	35	27	23	21	12	11
31	平成12年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	一橋	明治	法政	立教	横浜国立	日本
	(2000)	136	90	60	50	35	35	23	18	16	13
32	平成13年度	慶應義塾	早稲田	東京	中央	一橋	明治	横浜国立	日本	法政	立教
	(2001)	155	134	68	59	47	42	22	13	11	11
33	平成14年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	一橋	明治	横浜国立	法政	立教	日本
	(2002)	183	140	94	75	54	39	23	22	21	16
34	平成15年度	慶應義塾	早稲田	東京	中央	一橋	京都	同志社	神戸	明治	大阪
	(2003)	228	152	78	76	71	49	48	47	45	37
35	平成16年度	慶應義塾	早稲田	東京	中央	神戸	明治	同志社	一橋	京都	立命館
	(2004)	208	153	93	76	62	60	56	56	50	40
36	平成17年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	一橋	同志社	神戸	明治	関西学院	京都
	(2005)	209	159	106	61	51	48	43	40	40	37
37	平成18年度	慶應義塾	早稲田	東京	一橋	中央	明治	同志社	京都	神戸	関西学院
	(2006)	224	146	73	69	64	55	49	48	38	35
38	平成19年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	神戸	同志社	東京	一橋	京都	立命館
	(2007)	411	293	150	105	105	102	99	94	73	71
39	平成20年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	明治	同志社	一橋	立命館	神戸	京都
	(2008)	375	307	160	114	110	102	93	85	83	82
40	平成21年度	慶應義塾	早稲田	中央	東京	明治	一橋	関西学院	神戸	同志社	法政
	(2009)	258	247	159	84	72	56	56	52	52	49
41	平成22年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	東京	同志社	立命館	神戸	関西学院	京都
	(2010)	251	221	152	98	67	62	57	49	46	45
42	平成23年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	立命館	京都	一橋	東京	同志社	関西学院
	(2011)	210	169	96	83	52	47	46	44	38	36
43	平成24年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	同志社	法政	立命館	神戸	青山学院	東京
	(2012)	161	109	99	63	49	38	30	29	29	28
44	平成25年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	同志社	神戸	東京	関西学院	京都	青山学院 立命館
	(2013)	121	93	77	68	49	36	33	32	31	26
45	平成26年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	同志社	立命館	関西	関西学院	法政	神戸
	(2014)	120	94	87	69	43	29	29	28	27	27
46	平成27年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	同志社	関西	関西学院	神戸	東京	専修
	(2015)	123	91	64	56	33	29	28	28	23	22
47	平成28年度	慶應義塾	早稲田	中央	明治	東京	同志社	立命館	関西学院	法政	神戸
	(2016)	139	96	96	72	36	33	29	27	27	26
48	平成29年度	慶應義塾	早稲田	明治	中央	東京	京都	一橋	立命館	神戸	専修
	(2017)	157	111	84	77	50	48	36	31	29	29
49	平成30年度(2018)	慶應義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 39	一橋 37	関西学院 34	立教 32
50	令和元年度	慶應義塾	早稲田	明治	中央	東京	京都	立命館	神戸	一橋	法政
	(2019)	183	105	81	71	40	38	38	36	34	34

第43期総会

2019年3月26日18時15分から公認会計士三田会第43期総会を開催しました。第43期の事業報告、会計報告を行い、第44期事業計画及び予算を承認しました。また、任期満了に伴い、新会長として小見山満君(S52卒)が選出され、新たに加藤達也君(S61卒)、新井達哉君(S63卒)、佐藤裕紀君(S63卒)、森田健司君(H7卒)が副会長に選任されました。新幹事選任では新人世話人12名、実行委員3名が異議なく選任されました。

新人歓迎会

総会に引き続き、2019年新人歓迎会を開催しました。慶應義塾大学経済学研究科委員長中村慎助先生、商学部教授園田智昭先生、商学部教授髙久隆太先生、慶應義塾塾員センター課長北村和夫様をお迎えして、2018年合格者をお祝いしました。







秋季研修会・懇親会

2019年10月3日の18時30分から、慶應義塾大学三田校舎の北館ホールにおいて、秋季研修会を開催しました。慶應義塾大学医学部教授(整形外科学)中村雅也先生を講師としてお迎えして「公認会計士の超高齢化対策と再生医療」をテーマに講演をいただきました。研修会終了後は、場所を南校舎のザ・カフェテリアに移して懇親会を開催しました。中村先生の大変有意義なお話しを拝聴した直後だったこともあり、参加者は明るい雰囲気の中で談笑をし、最後は恒例の「若き血」を斉唱し楽しい一時を過ごしました。









早慶戦ゴルフ

2019年9月7日

令和初の公認会計士ゴルフ早慶戦は、茨城ゴルフ倶楽部において開催されました。ここ最近勝った記憶 が筆者になく、毎度来年もお相手してくださるよう、頭を下げてお願いし続けております。早稲田の充実した 選手陣に、どれだけ慶應が食い下がることができるかがテーマとなっています。我が慶應選手陣のスタート 前の話題といえば、 「ユニフォームを新調しよう、 古いと気合が入らない |とか 「暑さ対策 |とか、 早稲田にゴ ルフで勝つための本筋から外れておりました。しかし、さすが本番に強い慶應、スタート直後からは表情を引 き締めて頑張りました。それでも、早稲田の壁は厚く、グロスの優勝、準優勝を有賀君近野君にさらわれ、べ テランエース小見山会長が3位に食い込むも、早稲田が次々入賞して、あえなく敗戦となりました。去年と同じ

く、頭を下げて再戦を懇願いたしました。2次 会では、情け深い早稲田の方々からご馳走に なりました。ありがとうございました。選手諸君 には、来年のこの日のために、万全の調整をお 願いします。



三田会ゴルフコンペ

2019年12月29日

毎年、年末に開催するのが定着した公認会計士三田会ゴルフですが、今年は初参加の会員もおり、4 組での開催となりました。朝のレイクウッドゴルフクラブには、完璧な冬装備のメンバーが集まりました。冠雪 の富士が美しく見える中、和気藹々、楽しくプレーしました。優勝は、相談役の森君、準優勝に楠美君、3位 に最近上達めざましい加藤君がはいりました。ベストグロスは、1人だけ違うコースを回ったのでないかとい

うようなスコアの新井君となりました。誰でも参 加できる会ですので、初心者大歓迎、やって みようか、初めてラウンドでも大丈夫です。お 気軽にお問い合わせください。



大学対抗ゴルフ十月会

本年の十月会は、2019年10月13日に予定されておりました。台風18号19号の通過により、開催は中止と なりました。被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

役員一覧

 役会 職長		mat.		
	ᇫ	職	卒業年度	氏 名
		Æ	S 5 2 年 卒	小見山 満
副副				
B				
B				
副副会	副会	長	S61年卒 │	加藤 達也
副副会	副会	長	S63年卒	新井 達哉
副副会				
日				
幹幹 事 S 4 9 9 年 卒 卒 卒 卒 權 機				400 - 1
幹幹 事 S S S E				
幹幹 事 S S S S S S S S F P	幹	事	S49年卒	梶川 融
幹幹 事 S S S S S S S S F P	幹	事	S52年卒	佐藤 行正
幹幹 事 S 5 5 4 年卒 中 持 中		車		
等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等				
幹幹 事 S S S S E D E E E E D E E D E E D E E E E E C C E C E E E C E C E C E C E C E C E E E E E				
幹幹 事 S 5 6 2 4 3 2 4 3 2 4 3 2 4				
幹幹 事 S 5 6 年 卒 空 井 井 日 中 <td></td> <td></td> <td>S55年卒</td> <td></td>			S55年卒	
幹幹 事 S S S E E 基	幹	事	S55年卒	関口 弘和
幹幹 事 S S S E E 基	幹	事	S 5 6 年 卒	金井 沢治
幹幹 事 S S S F 幹幹 事 S S S F P D D N		-		
幹幹 事 S 5 9 年卒卒卒卒卒卒卒卒。 澤本 2 日本 2 2 日本 2 4 2 2 4 2 3 4 4 4 2 2 4 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4 2				
幹幹 事 S 5 9 年卒 志 2 1 2				
等等 事 S 6 0 9 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年	幹	事	S59年 卒 │	澤口 雅昭
幹幹 事 S 6 0 0 年 年 空 速 担 中 管 整 P 企 <	幹	事	S59年卒	志村 さやか
幹幹 事 S 6 0 0 年 卒 卒 卒 产 占 山海 戶 形 下 形 下 形 下 形 下 形 下 不 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 上	首 全			
幹 事 S 6 0 0 年空卒 公 公 不 財 要 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>				
幹幹 事 S 6 1 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年				
幹幹 事 S G 1 C P		事		
幹幹 事 S G 1 正式之介奉 幹幹 事 S G 1 服 正式之介奉 幹幹 事 S G 2 年 卒 卒 連 中 日	幹	事	S61年卒	海野 隆義
幹幹 事 S G 1 正式之介奉 幹幹 事 S G 1 服 正式之介奉 幹幹 事 S G 2 年 卒 卒 連 中 日	幹	事	S 6 1 年 卒	
幹幹 事 S 6 2 年 年 卒 安要上尾川州石倉 大美術 幹幹 事 S 6 2 年 年 卒 安要上尾川州石倉 大美術 東京 大美術 東京 大美術 東京 大美術 東京 大美術 東京 大大東 東京				
等等 事 S 6 2 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年				
幹幹 事 S G 2 年卒卒 上 D 企 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				
幹 事 S62年卒卒 屋 上名 源 審 本 全 上名 課 事 本 上名 課 事 本 上名 課 事 本 上名 課 事 本 出 上名 課 事 本 出 上名 井 上名 井 日				
幹幹 事 S G 2 年 上 名 品 志 品 志 品 市 店 品 日	幹	事		
幹幹 事 S G 2 年 上 名 品 志 品 志 品 市 店 品 日	幹	事	S 6 2 年 卒	尾立 源幸
幹 事 S G 3 年 卒卒 權田中田田公司 本 上 <th< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td></th<>				
幹 事 S G 3 年卒卒 田 部 子 部 子 部 子 部 子 部 子 日 即 中 書 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 子 日 日 子 日 子 日 子 日 子 日 子 日 日 子 日				
幹 事 S G 3 年 子 人 房 子 人 企 中 子 人 房 子 上 会 本 子 人 企 中				
幹 事 S G 3 年卒卒 內 內 上				
幹幹 事 S63 C63 C63 C7 C7 C8	幹	事	S63年卒	岡田 貴子
幹幹 事 S63 C63 C63 C7 C7 C8		事		
幹幹 事 日 1 年 年 中 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 管 吉 2 年 年 推 度 2 年 年 中 計 2 年 年 中 計 2 年 年 中 計 3 年 年 中 計 3 年 年 中 計 3 年 年 日 計 5 年 年 日 計 5 年 年 日 計 5 年 年 日 計 5 年 年 日				
幹 事 H 1 1 2 全 上				ナヤ ルタ
幹 事 H 1 1 2 年卒 之 股票 中央 2 股票 中央				
幹幹 事 H 2 年 卒 高橋本費 典 典 典 要 持 要 持 要 持 要 持 要 表 未 上 全年本产 本 上 <th< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td></th<>				
幹幹 事 H 2 年 卒 來 表 子子工 幹幹 事 H 2 年 卒 華 素 大 養表 主 表 工作 会 本 主 表 工作 基 本 工作 工作 会 本 工作 会 工作	幹	事	H 1 年 卒	北澄 和也
幹幹 事 H 2 年 卒 華 申 子子工館 幹幹 事 H 2 年 卒 華 華 未 方 子子工健康 幹幹 事 H 5 年 卒 華 市 方 百 內邊 和和道男 和 方 方 日 內邊 中 <td>幹</td> <td>事</td> <td>H 2 年 卒</td> <td>高橋 克典</td>	幹	事	H 2 年 卒	高橋 克典
幹幹 事日 3 年卒 查詢 子江 幹幹 事日 3 年卒 查詢 表記 幹幹 事日 5 年卒 查詢 和和道田 幹幹 事日 5 年卒 查詢 和和道田 表記 幹幹 事日 5 年卒 本內邊 和和道田 要別 会別 中幹 事日 6 年卒 全卒 会本 財別 会会 報酬 日本 会工				
幹幹 事 H 3 年 卒 给 报 担 上 表 主 表 社 方 日 方 日 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				
幹 事 H 5 年 売 機 健 幹幹 事 H 5 年 卒 売 週 和 1 5 年 卒 产 通 内 通 回 中 日				
幹幹 事 H 5 年 卒 百瀬 和取明明 幹幹 事 H 5 年 卒 百 古人邊 別明明 幹幹 事 H 5 年 卒 內邊 男別也 幹幹 事 H 6 年 卒 空 本書 未出 会				
幹幹 事 H 5 年 卒 古山內 明明 幹幹 事 H 5 年 卒 古山內 和 和 明明 幹幹 事 H 5 年 卒 本 日	幹	事	H 5 年 卒	荒 張 健
幹幹 事 H 5 年 卒 古山內 明明 幹幹 事 H 5 年 卒 古山內 和 和 明明 幹幹 事 H 5 年 卒 本 日	幹	事	H 5 年 卒	百瀬 和政
幹 事 H 5 年 卒 立 適男則 適別 明 地邊 適男則 1 5 年 卒 中 過 適別 地邊 適別 地邊 適別 地別 地別 中 中 日		_		
幹 事 H 5 年 卒 関口 男 幹幹 事 H 5 年 卒 関本 要 生 要 申 事 H 6 年 卒 本 財 書 H 6 年 卒 中 書 出 6 年 卒 空 連 本 出 別 書 出 会 室 連 未 出 の 上 会 全 要 上 の 会 工 の 会 工 の				
幹 事 H 5 年卒 神響 整 整 整 整 整 整 整 整 整 整 要 持 会 中 整 要 并 会 全 要 种 整 要 日 会 年 空 空 中 等 事 H 6 年年卒卒 型 通 上 会 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				
幹 事 H 6 年 卒 营谷本房明 主 子明 幹幹 事 H 6 年 卒 卒 全 全 未 日 会年年卒 全 未 日 会年年产 会校 財際 事 H 6 年 卒 卒 空 計 6 年 卒 卒 会別 日 6 年 卒 卒 会別 日 2 会別 会別 日 2 会別 日 2 会別 会別 日 2 会別 会別 日 2 会別 日 <td></td> <td>事</td> <td></td> <td></td>		事		
幹 事 H 6 年 卒 松本原明 書 無別 幹幹 事 H 6 年 卒 機一 無別 幹幹 事 H 6 年 卒 空 體 一 上 会	幹	事	H 5 年 卒	神塚勲
幹 事 H 6 年 卒 松 個別 書 朋 幹幹 事 H 6 年 卒 融別 書 出 の 会 </td <td>幹</td> <td>事</td> <td>H 6 年 卒</td> <td>菅谷 圭子</td>	幹	事	H 6 年 卒	菅谷 圭子
幹 事 H 6 年 卒 御朋 健太郎郎 幹幹 事 H 6 年 卒 空 治 企 市 治 企 市 日 企 市 日 企 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				
幹 事 H 6 年 卒 問 治 一郎 幹幹 事 H 6 年 卒 空 計 合 年 卒 会 企 企 会 企 企 会 企 企 会 企 会 企 会 企 企 会 企 企 会 企 会 企 会 企 会 企 会 企 会 企 企 会 企 企 企 会 企		_		
幹 事 H 6 年 空 园原 宏司介 幹幹 事 H 6 年 空 虚 金 全 主 日 7 年 全 全 全 主 日 7 年 全 全 主 日 2 主 上 2 主 上 2 主 工 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				
幹 事 H 6 年 卒 曾 宮 府 介 幹幹 事 H 6 年 卒 啓 竜 弘 啓 音 別 內 內 人 幹幹 事 H 6 年 卒 空 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內		_		
幹 事 H 6 年 卒 松 浦 仓 人 隆 幹幹 事 H 7 年 卒 益 位 繁 幹幹 事 H 7 年 卒 充 公 優 幹幹 事 H 7 年 卒 交 分 修 余 公 後 等 申 日 7 7 年 卒 立 力 (未 の	幹	事		石原 宏司
幹 事 H 6 年 卒 田中 弘 隆健 幹 事 H 7 年 卒 会 全 幹幹 事 H 7 年 卒 北 村 修一宗 中 日	幹	車		
幹 事 H 6 年 卒 田中 弘 隆健 幹 事 H 7 年 卒 会 全 幹幹 事 H 7 年 卒 北 村 修一宗 中 日		7	└ H 6 年 卒	
幹 事 H 7 年 卒 森谷 健繁 幹 事 H 7 年 卒 北村 場 幹 事 H 7 年 卒 北村 場 場 幹 事 H 8 年 卒 上 人 場 上 <td>幹</td> <td></td> <td></td> <td>曽宮 啓介</td>	幹			曽宮 啓介
幹 事 H 7 年 空 荒 公 繁票 幹件 事 H 7 年 空 土 大 票 幹件 事 H 8 年 空 完 過 大 所 財 修 完 過 大 票 財 未 日 8 年 空 空 連 機 未 財 未 日 <td></td> <td>事</td> <td>H 6 年 卒</td> <td>曾宮 啓介 松浦 竜人</td>		事	H 6 年 卒	曾宮 啓介 松浦 竜人
幹 事 H 7 年 中 土村 排 崇郎 幹幹 事 H 8 年 卒 長 山 修 宗郎 幹幹 事 H 8 年 卒 農品 機 大 作 未 上 会 上<	幹	事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒	曾宮啓介松浦竜人田中弘隆
幹 事 H 7 年 中 郎 幹 事 H 8 年 卒 論 長尾 典尚 幹 事 H 8 年 卒 論問 大 令 申 <td>幹幹</td> <td>事事</td> <td>H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒</td> <td>曽宮 啓介 松浦 竜人 田中 弘隆 森谷 健</td>	幹幹	事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒	曽宮 啓介 松浦 竜人 田中 弘隆 森谷 健
幹 事 H 8 年 完 完 完 尚 完 尚 完 尚 大 高 出 未 上	幹 幹 幹	事事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒	曽宮 啓介 松浦 竜人 田中 弘隆 森谷 健 荒谷 繁
幹 事 H 8 年 完 完 完 尚 完 尚 完 尚 大 高 出 未 上	幹 幹 幹	事事事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒	曽宮 啓介 松湖 竜人 田中 弘隆 荒谷 繁 北村 崇
幹 事 H 8 年 卒 高山費 進大文學 幹幹 事 H 8 年 卒 編高 本 修成 幹幹 事 H 9 年 卒 面 近 で の で の <th< td=""><td>幹 幹 幹</td><td>事事事事</td><td>H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒</td><td>曽宮 啓介 松湖 竜人 田中 弘隆 荒谷 繁 北村 崇</td></th<>	幹 幹 幹	事事事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒	曽宮 啓介 松湖 竜人 田中 弘隆 荒谷 繁 北村 崇
幹 事 H 8 年 總費 數文 幹 事 H 8 年 申 高 本 和成 和成 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 本 和 五 工 工 本 工 <td>幹 幹 幹 幹</td> <td>事事事事事</td> <td>H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒</td> <td>宮 啓介 松田中 弘隆 荒谷 繁 北村 崇 秋山 修一郎</td>	幹 幹 幹 幹	事事事事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒	宮 啓介 松田中 弘隆 荒谷 繁 北村 崇 秋山 修一郎
幹 事 H 8 年 本 修 幹 事 H 9 年 空 日 0 成成 幹 事 H 9 年 空 機 大 高 大 市 日 0 全 全 長 大 市 日 0 大 市 字 申 中 日 0 大 市 下 下 下 下 市 日 0 上 上 上 上 日 2 上	幹 幹 幹 幹 幹	事事事事事事	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒	宮 内 松田中 弘隆 森谷 健繁 北秋山 修宗 長 長
幹 事 H 8 年 卒 知成 幹 事 H 9 年 卒 程 股 管 友 大 方 管 友 介 申 申 申 日 力 方 市 中 申	幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒	宮 本 市 会 市 会 市 会 市 会 中 会 中 会 東 の 市 会 中 会 東 の 中 会 中 </td
幹 事 H 9 年 空 智彦 幹 事 H 9 年 卒 養 養 大方志 幹 事 H 9 年 卒 五 五 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 支 表 大 支 表 工 本 会 本 工 本 全 本 工 本 主 工 本 工 本 工 本 工 主 工 本 工 工 工 本 工	幹 幹 幹 幹 幹	***	H 6 F F F F F F F F F F F F F F F F F F	曾松田森荒北秋县高綿贯 宮浦中谷谷村山尾山県山県山県山貫
幹 事 H 9 年 來 友宏 幹 事 H 9 年 三 長野 本 大清 字 幹 事 H 10 年 空 野 学 光號 完 完 受 等 差 十 上 企 上 上 企 上 </td <td>幹 幹 幹 幹 幹</td> <td>=======================================</td> <td>H 6 F F F F F F F F F F F F F F F F F F</td> <td>曾</td>	幹 幹 幹 幹 幹	=======================================	H 6 F F F F F F F F F F F F F F F F F F	曾
幹 事 H 9 年 來 友宏 幹 事 H 9 年 三 長野 本 大清 字 幹 事 H 10 年 空 野 学 光號 完 完 受 等 差 十 上 企 上 上 企 上 </td <td>幹 幹 幹 幹 幹 幹</td> <td></td> <td>H 6 F P P H 6 F P P P P P P P P P P P P P P P P P P</td> <td>曾 格</td>	幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 F P P H 6 F P P P P P P P P P P P P P P P P P P	曾 格
幹 事 H 9 年 三 根 大介 幹 事 H 10 年 左 野 清 志 学 幹 事 H 10 年 空 世 光 健 決 世 ・ 上 金 上 金 上 金 上 金 上 金 上 金 上 金 上 金 上 金 上 上 金 上 上 金 上 <td>幹 幹 幹 幹 幹 幹</td> <td></td> <td>H 6 F P P H 6 F P P P P P P P P P P P P P P P P P P</td> <td>曾 格</td>	幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 F P P H 6 F P P P P P P P P P P P P P P P P P P	曾 格
幹 事 H 9 年 広野 清 志 幹 事 H 10 年 上	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 F F F F F F F F F F F F F F F F F F	曾松田森荒北秋長高編高田古 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀 東京浦中谷谷村山尾山貫木近賀 東京 地名 大文修成彦
幹 事 H10年卒 江幡 淳 幹 事 H110年卒 池館 光健 幹 事 H112年卒 池方 浩一 幹 事 H13年卒 三 好 幹 事 H13年卒 本 多 幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将二 幹 事 H14年卒 小松 大寿 幹 事 H14年卒 黒澤 久美子 幹 事 H15年卒 野池 報 幹 事 H15年卒 野池	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 F F F F F F F F F F F F F F F F F F	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎 北秋長高綿高田古篠
幹 事 H110年卒 問宮 光健 幹 事 H112年卒 抽方 幹 事 H12年卒 三好 幹 事 H13年卒 万齊藤 慶三 幹 事 H13年卒 國見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将二 幹 事 H14年卒 小松 法輔 幹 事 H14年卒 黒澤 久美子 幹 事 H15年卒 根側 幹 事 H15年卒 野池 幹 事 H15年卒 野池	幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古権三 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根 一宗雄敦 和智友大
幹 事 H 1 1 1 年 卒 池 田 由範 幹 事 H 1 1 2 年 卒 財 方 幹 事 H 1 3 年 卒 齊藤 慶三 幹 事 H 1 3 年 卒 要 慶三 幹 事 H 1 3 年 卒 野中 房 幹 事 H 1 4 年 卒 野中 高山 大輔 幹 事 H 1 4 年 卒 黒澤 久美子 幹 事 H 1 5 年 卒 外川 雅殿 幹 事 H 1 5 年 卒 野池	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野 「宗雄敦 和智友大清 「和智友大清
幹 事 H12年卒 緒方 浩一 幹 事 H13年卒 齊藤 慶三守 幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将三 幹 事 H14年卒 高温 大美輔 幹 事 H15年卒 根 業別 幹 事 H15年卒 野池 報報 幹 事 H15年卒 野池	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江電神中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡 下一宗雄敦 和智友大清 化二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
幹 事 H12年卒 緒方 浩一 幹 事 H13年卒 齊藤 慶三守 幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将三 幹 事 H14年卒 高温 大美輔 幹 事 H15年卒 根 業別 幹 事 H15年卒 野池 報報 幹 事 H15年卒 野池	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広工間 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮 大清 光
幹 事 H12年卒 三 好 巧 幹 事 H13年卒 賣藤 慶三 幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将二 幹 事 H14年卒 小松 大輔 幹 事 H15年卒 黒澤 久美子 幹 事 H15年卒 野池 報 幹 事 H15年卒 野池 報	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 10 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広工間 宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮 大清 光
幹 事 H13年卒 齊藤 慶三 幹 事 H13年卒 本 多 幹 事 H13年卒 財中 現見 健介 幹 事 H14年卒 野中 将二 幹 事 H14年卒 黒澤 久美子 幹 事 H15年卒 根建 栄 幹 事 H15年卒 野池 報 幹 事 H15年卒 野池 報	幹	15 HE	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 10 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池啓竜弘 「宗雄敦 和智友大清 光由啓竜弘」「宋雄敦 和智友大清 光由
幹 事 H13年卒 本多 守 幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H14年卒 野中 清本 幹 事 H14年卒 黒澤 久美子 幹 事 H15年卒 根 規 幹 事 H15年卒 野池 設 幹 事 H15年卒 野池 設	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 年 卒 H 11 年 卒 H 11 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒 医電油中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方 医竜丛 医神经节 医电子
幹 事 H13年卒 国見 健介 幹 事 H13年卒 野中 将二 幹 事 H14年卒 高山 大輔 幹 事 H15年卒 根速 栄 幹 事 H15年卒 小川 雅嗣 幹 事 H15年卒 野池 設	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好啓竜弘 作
幹 事 H 1 3 年 卒 野中 将二 幹 事 H 1 4 年 卒 小 私 清幸 幹 事 H 1 4 年 卒 黒澤 久美子 幹 事 H 1 5 年 卒 根 建 栄 幹 事 H 1 5 年 卒 小 川 雅 嗣 幹 事 H 1 5 年 卒 野 池 報	PR PR PR PR PR PR PR PR PR PR PR PR PR P	#######################################	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤啓竜弘 作宗雄敦 和智友大清 光由浩 慶
幹 事 H14年卒 小松 浩幸 幹 事 H14年卒 高山 大輔 幹 事 H15年卒 根 建 幹 事 H15年卒 野池 報 幹 事 H15年卒 野池 報	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	#######################################	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 13 4 平 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多啓竜弘 修
幹 事 H14年卒 小松 浩幸 幹 事 H14年卒 高山 大輔 幹 事 H15年卒 根 建 幹 事 H15年卒 野池 報 幹 事 H15年卒 野池 報	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	#######################################	H 6 年 卒 H 6 年 年 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 年 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 4 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見啓竜弘 作
幹 事 H14年卒 高山 大輔 幹 事 H15年卒 根 規 幹 事 H15年卒 収 滞 幹 事 H15年卒 野池 般 幹 事 H15年卒 野池 般	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	#######################################	H 6 年 卒 H 6 年 年 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 年 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 4 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見啓竜弘 作
幹 事 H 1 4 年 卒 黒澤 久美子 幹 事 H 1 5 年 卒 根 建 栄 幹 事 H 1 5 年 卒 野 池 般	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 卒 H 9 年 年 H 9 年 年 H 10 年 卒 H 10 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 3 年 卒 H 11 3 年 卒 H 11 3 年 卒 H 11 3 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三青本国野宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中修建教 和智友大清 光由浩 慶 健将
幹 事 H 1 5 年 卒 根 建 栄 幹 事 H 1 5 年 卒 小川 雅 嗣 幹 事 H 1 5 年 卒 野 池 毅	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 8 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 9 年 卒 H 10 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 2 年 卒 H 11 3 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松修二、一宗雄教 和智友大清 光由洁 慶 健将浩 健 健 将 浩
幹 事 H15年卒 小川 雅嗣 幹 事 H15年卒 野池 毅	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹		H 6 年 卒 H 6 年 年 H 7 年 年 H 7 年 年 H 7 年 年 H 7 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 9 年 年 H 9 年 年 H 9 年 年 H 10 年 年 H 11 2 年 年 H 11 2 年 年 H 11 2 年 年 H 11 3 年 年 H 11 3 年 年 H 11 3 年 年 H 11 3 年 年 H 11 4 年 年 H 11 4 年 平 H 11 4 年 平	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小高宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山修 作
幹 事 H15年卒 野池 毅	幹 解 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 年 H 7 年 卒 H 7 年 年 H 7 年 年 H 7 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 8 年 年 H 9 年 年 H 9 年 年 H 10 年 年 H 11 2 年 年 H 11 2 年 年 H 11 2 年 年 H 11 3 年 年 H 11 3 年 年 H 11 4 年 年 H 13 年 年 H 14 4 年 H 14 4 年 H 14 4 年 H 14 4 年	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三青本国野小高黒宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山澤一宗雄敦 和智友大清 光由浩 慶 健将浩大美久隆成彦宏介志淳健範一巧三守介二幸輔子
幹 事 H15年卒 野池 毅	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 9 年 年 卒 H 9 年 年 卒 H 10 年 年 卒 H 10 年 年 卒 H 11 2 年 年 卒 H 11 3 年 年 卒 H 13 年 卒 H 14 年 卒 H 15 年 卒 H 15 年 卒 H 17 年 卒 H 17 年 卒 H 17 年 卒 H 18 年 卒 H 19 年 百 H 10 年 百 H 10 年 百 H 11 8 年 卒 H 11 8 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小高黒根宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山澤建一宗雄教 和智友大清 光由洁 慶 健将浩大美久 人 使健繁崇郎尚大文修成彦宏介志淳健範一巧三守介二幸輔子栄
	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 9 年 年 卒 H 9 年 年 卒 H 10 年 年 卒 H 10 年 年 卒 H 11 2 年 年 卒 H 11 3 年 年 卒 H 13 年 卒 H 14 年 卒 H 15 年 卒 H 15 年 卒 H 17 年 卒 H 17 年 卒 H 17 年 卒 H 18 年 卒 H 19 年 百 H 10 年 百 H 10 年 百 H 11 8 年 卒 H 11 8 年 卒	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小高黒根宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山澤建一宗雄教 和智友大清 光由洁 慶 健将浩大美久 人 使健繁崇郎尚大文修成彦宏介志淳健範一巧三守介二幸輔子栄
···	幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 卒 H 7 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 9 年 年 年 日 H 9 年 年 年 年 日 H 10 年 年 年 年 日 H 11 2 年 年 年 年 日 H 13 年 年 年 年 日 H 13 年 年 年 年 日 H 14 年 年 年 年 日 H 14 年 年 年 年 日 H 15 年 年 年	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小高黒根小宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山澤建川 作
	幹 解 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹 幹	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H 6 年 卒 H 6 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 7 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 8 年 年 卒 H 9 年 年 年 H 9 年 年 年 H 10 年 年 卒 H 11 年 年 卒 H 11 2 年 年 卒 H 11 3 年 7 年 7 H 11 3 年 7 年 7 H 11 3 年 7 年 7 H 11 5 年 7 年 7	曾松田森荒北秋長高綿高田古篠三広江間池緒三齊本国野小高黒根小野宮浦中谷谷村山尾山貫木近賀崎根野幡宮田方好藤多見中松山澤建川池啓竜弘 修

役	職	卒業年度	氏	2
幹	事	十 未 年 及 H 1 5 年 卒	濱 貴	<u></u> 之
幹	事	H 1 5 年 卒	荒井 悠	5 2
幹	事	H 1 6 年 卒	並木修	
幹幹	<u>事</u> 事	H 1 6 年 卒	門澤 麻	
幹	事	H 1 6 年 卒	佐藤彩	
幹	事	H 1 6 年 卒	英正	樹
幹幹	事事	H 1 6 年 卒	齋藤 啓 赤羽 悠	
幹	事	H 1 6 年 卒	杣野 慶	
幹	事	H 1 6 年 卒	岡田 泰	
幹幹	事	H 1 7 年 卒	渋 佐 寿 加 来 義	
幹	事	H17年辛	齊藤 雄	
幹	事	H 1 7 年 卒	髙梨 良	
幹幹	事事	H 1 7 年 卒	渡辺一福島 第	- 生
幹	事	H 1 7 年 卒	福島 崇米田 恵	
幹	事	H 1 8 年 卒	天野 真	
幹	事	H 1 8 年 卒	清水 麻瓷	
幹幹	事事	H 1 8 年 卒	<u>片山</u> 斎藤 智	恵
幹	事	H 1 9 年 卒	幡野 裕	
幹	事	H 2 0 年 卒		里子
幹幹	<u>事</u> 事	H 2 0 年 卒	土井 され	
幹	事	H 2 0 年 卒	山根 寿宮山 朝	
幹	事	H 2 1 年 卒	善 林 個	子
幹	事	H 2 1 年 卒	大星 宏豊田 裕	
幹幹	事事	H 2 1 年 卒		文明
幹	事	H 2 2 年 卒	上田 彩	
幹	事	H 2 2 年 卒	渡 部	亮
幹幹	事	H 2 2 年 卒	森田雄川西雄	
幹	事	H 2 3 年 卒	今野	洋
幹	事	H 2 3 年 卒	清水 裕	
幹幹	事事	H 2 3 年 卒	奥山 倒渡邊 三南	
幹	事	H 2 3 年 卒	津田	覚
幹	事	H 2 3 年 卒	福井 招	志
幹	事	H 2 4 年 卒	神原大	
幹幹	事	H 2 4 年 卒	矢島 淳z 藤野 里	
幹	事	H 2 4 年 卒	韮澤 一	平
幹	事	H 2 4 年 卒	菅原 晃	
幹幹	<u>事</u> 事	H 2 4 年 卒	山本 早和 荻野 創	口美
幹	事	H 2 4 年 卒	野村孟	
幹	事	H 2 4 年 卒	山内 里花	艺子
幹幹	事事	H 2 4 年 卒	芦川 昇 柿 沼	平龍
幹	事	H 2 5 年 卒	田宗千	
幹	事	H 2 5 年 卒	濱田 浩	
幹幹	事	H 2 5 年 卒	井上 大近藤 神	
幹	事	H 2 5 年 卒	佐藤 佳	
幹	事	H 2 5 年 卒	長野 早	
幹	事	H 2 5 年 卒	浅見 理組	
幹幹	事事	H 2 6 年 卒	井口 蔵	、騎
幹	事	H 2 6 年 卒	内藤 翔	1 斗
幹	事	H 2 6 年 卒	古川 領吉田 康元	
幹幹	<u>事</u>	H 2 7 年 卒	吉田 康元	
幹	事	H 2 7 年 卒	古川 拳	±
幹	事	H 2 7 年 卒	阿部 紀	
幹幹	<u>事</u> 事	H 2 8 年 卒	野村 射山本 健力	
幹	事	H 2 8 年 卒	大谷 晴	香
幹	事	H 2 8 年 卒		浩
幹幹	事事	H 2 8 年 卒	大塚 悠 三浦 優-	<u>?介</u> -朗
幹	事	H 2 9 年 卒	清水	亮
幹	事	H 2 9 年 卒	鄭善	斗
幹幹	<u>事</u>	H 2 9 年 卒 H 2 9 年 卒	岡村 招 島 仁	美美
幹	事	H 2 9 年 卒		. 博
幹	事	H 2 9 年 卒	西村 英	三莉
幹	事	H29年卒	寺谷 暢	
幹幹	事事	H 2 9 年 卒		<u> </u>
幹	事	H 2 9 年 卒	古作 椛	真
幹	事	H 2 9 年 卒		手平
幹	事	H 2 9 年 卒	井手 優力	に出
幹				

/E. 1946		- A
役 職	卒業年度	氏 名
幹事	H 2 9 年 卒	北野 友梨
幹事	H 2 9 年 卒	小松 汐里
幹事	H 2 9 年 卒	渡邉 紘子
幹事	H 2 9 年 卒	大津 青葉
幹事	H 2 9 年 卒	酒井 悠吾
幹事	H 2 9 年 卒	清水 一輝
幹 事	H 2 9 年 卒	津川 雅樹
幹 事	H 3 0 年 卒	森 泰智
幹 事	H 3 0 年 卒	桂木 裕至
幹 事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹 事	H 3 0 年 卒	石谷 麻子
幹事	H 3 0 年 卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	濱田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
幹事	H30年卒	会川 智華
幹事	H 3 0 年 卒	橋詰 日菜子
幹事	H 3 0 年 卒	石井 奈緒
幹事	H 3 1 年 卒	安田 真由子
幹事		宮川 和輝
幹事	H 3 1 年 卒	鈴木 祥希
幹事	H 3 1 年 卒	相原 理花
幹事	H 3 1 年 卒	板東 真里
会計監事	S55年卒	市村清
会計監事	H 2 年 卒	茂木 哲也
年度世話人	S 5 6 年 卒	金井 沢治
年度世話人	H 3 年 卒	志賀 恭子
年度世話人	H 3 年 卒	鈴木 真紀江
年度世話人	H13年卒	齊藤 慶三
年度世話人	H 1 3 年 卒	本多 守
年度世話人	H 1 3 年 卒	国見 健介
年度世話人	H 1 3 年 卒	野中 将二
年度世話人	H23年卒	今野 洋
	H 2 3 年 卒	清水 裕文
年度世話人		
年度世話人		71
年度世話人	H 2 3 年 卒	渡邊三南子
年度世話人	H 2 3 年 卒	津田党
年度世話人	H 2 3 年 卒	福井 拓志
新人世話人	H 3 0 年 卒	杉本 優太
新人世話人	H 3 0 年 卒	富吉 遼太
新人世話人	H 3 1 年 卒	宇野 耕太郎
新人世話人	H 3 1 年 卒	小林 裕季
新人世話人	H 3 1 年 卒	塩路 麻衣
新人世話人	H 3 1 年 卒	高山 大輔
新人世話人	H 3 1 年 卒	平井 謙利
新人世話人	H 3 1 年 卒	皆川 幸旺
新人世話人	在学中(4年)	坂口 あかり
新人世話人	在学中(4年)	高木 万里子
新人世話人	在学中(4年)	滝沢 美紀
新人世話人	在学中(4年)	古川 聖人
	在学中(4年)	
新人世話人		
新人世話人 新人世話人	在学中(4年) 在学中(4年)	
		武藤 葵
新人世話人	在学中(4年)	森枯也
新人世話人	在学中(3年)	齊藤 智弘
	= =	
実行委員	H 4 年 卒	近田 直裕
実行委員	H 4 年 卒	土田 惠一
実行委員	H 5 年 卒	小松 亮一
実行委員	H 9 年 卒	須山 誠一郎
実行委員		
	H 1 6 年 卒	石川 資樹
相談役	H 1 6 年 卒 S 3 0 年 退	石川 資樹宇野 皓三
相談役相談役		宇野 皓三
	S30年退	宇野 皓三野田 晃子
相談役	S30年退 S36年卒	字野 皓 三 野田 晃子 石井 清之
相談役相談役	S 3 0 年 退 S 3 6 年 卒 S 4 1 年 卒 S 4 2 年 卒	字野 皓 三 野田 晃子 石井 清之 青木 雄二
相談 役 相談 役 相談 役	S30年退 S36年卒 S41年卒 S42年卒 S42年卒	字野 皓 三 野田 晃子 石井 清之 青木 雄二 一法師 信武
相談役 相談役 相談役 相談役 相談役	S 3 0 年 退 S 3 6 年 卒 S 4 1 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒	字野 皓三 野田 晃子 石井 清之 青木 雄二 一法師 信武 杉山 美代子
相 談 役 相 談 役 相 談 役 相 談 役 相 談 役	S30年退 S36年卒 S41年卒 S42年卒 S42年卒 S42年卒 S43年卒	字野 皓三 野田 晃子 石井 清進二 一法
相談役 相談役 相談役 相談役 相談役 相談役	S30年退 S36年卒 S41年卒 S42年卒 S42年卒 S42年卒 S43年卒 S45年卒	字野 皓三 野田 晃子 石井 清之 青 雄 信式 一法山 美代子 湯 佐 幸太郎
相談 役	S30年退 S36年卒 S41年卒 S42年卒 S42年卒 S42年卒 S43年卒 S45年卒 S46年卒	宇野田井 木師 美信代富太山佐田 中華 本正
相談 役	S 3 0 年退 S 3 6 年卒 S 4 1 年卒 S 4 2 年卒 S 4 2 年卒 S 4 2 年卒 S 4 3 年卒 S 4 5 年卒 S 4 6 年卒	字野田
相談 役 相談 役	S 3 0 年 退 S 3 6 年 卒 S 4 1 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 5 年 卒	字野田井木師 美唱信代富太正晶順 大法山佐田竹藤藤
相 談 役 他 相 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談	S 3 0 年 退 S 3 6 年 卒 S 4 1 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 3 年 卒 S 4 5 年 卒 S 4 6 年 卒 S 4 6 年 卒 S 5 6 年 卒 S 5 6 年 卒	字野田 井 木 師 美田 竹藤 華 中 長 二 武子 治郎 幸 春 子 己 二 武子 治郎 幸 春 子 己
相 談 役 租	S 3 0 年 退 S 3 6 年 平 S 4 6 年 平 S 4 2 年 平 S 4 2 年 平 S 4 2 年 平 S 4 2 年 平 S 4 9 年 平 S 4 6 年 平 S 5 5 1 年 平 S 5 5 1 年 平	宇野田井 木師 華 東野田井 木 師 美 中野田井 木 師 美 幸 信代富太正晶順辰 東 田順辰
相 談 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役 租 相 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 談 段 役 役 役 役 租 相 裁 談 役 役	S 3 0 年 退 S 3 6 年 卒 S 4 1 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 2 年 卒 S 4 3 年 卒 S 4 5 年 卒 S 4 6 年 卒 S 4 6 年 卒 S 5 6 年 卒 S 5 6 年 卒	字野田 井木 師 美田 竹藤 華 中

公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年 9月 1日 昭和55年 1月21日 改正 昭和58年 1月10日 改正 昭和61年 1月17日 改正 平成 15年 1月 29日 改正 改正 平成 15 年 12 月 4 日 改正 平成 20 年 1月 30 日 平成 23 年 12 月 14 日 改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、公認会計十三田会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、 会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会 員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図る ことを目的とする。

(事務所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事業)

- 第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の 事業を行う。
 - 会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
 - 2、内外の資料の調査、研究
 - 3、業務情報の交換
 - 4、会報その他刊行物の発行
 - 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会員

(会 員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計 士補、これらの有資格者及び公認会計士試験 合格者をもって会員とする。

第3章 役 員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は 1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相談役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総 会において選出する。

幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選仟)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総 会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ケ月以内に、臨 時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長 が招集する。

第5章 会計

(会 費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金を もってこれに当てる。

> 会費は、公認会計士は年額10,000円、 会計士補ならびに公認会計士試験合格者は 3,000円とする。なお、公認会計士のうち 近年に卒業した会員に対して会費を一部減額 することを認め、その取扱は幹事会にて決定 する。

有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、 12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附 則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附 則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度 より適用する。

(附 則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。



http://www.cpa-mitakai.net

公認会計士三田会会報【第44号】(令和2年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

編集発行:公認会計士三田会 佐藤裕紀/渋佐寿彦

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 近鉄霞が関ビル3F 佐藤裕紀公認会計士事務所内電話:03-6852-6852 FAX:03-6852-6853 E-mail:sec@keiocpa.com